

経済倶楽部便り

◆東京◆ 6月の講師の一人は慶応大学大学院教授の小幡績氏でした。同氏は独特の視点からの論理展開で有名です。激しい円安が続く現在の日本ですが、10年ほど前には『円高・デフレが日本を救う』とのタイトルで本も出されておられ、今読んでも参考になる指摘を多々されています。今回は「22世紀には近代資本主義は終わっている」との視点からお話されました。バブルは流動化と集中を特徴とするが、近代資本主義そのものがバブルだと。22世紀にはこの長期のバブル循環が終わりを迎え、固定化と内向きの時代になるだろうと話されました。詳細は

8月号に掲載されます。

8月の定例講演会は夏季休会となります。

◆中部◆ 6月末で解散が決まった中部経済倶楽部では最後の講演会の講師として寺島実郎氏に来て頂きました。「日本はGDPランキングでドイツに抜かれ、25年にはインドに抜かれて世界5位に。GDP2・5倍の公的債務残高も先進国で最悪。今の円安は日本経済への信頼度低下を示している。これからの日本がTSMC誘致に象徴される半導体とインバウンドで甦ると思うのは実は間違い。不可欠なのは日本の再生力の強化で、総合エンジニアリングの回復に加えて医療・防災、食料、農業など戦後特化してきた経済中心主義を見直すことだ」と話されました。

(日暮良一)